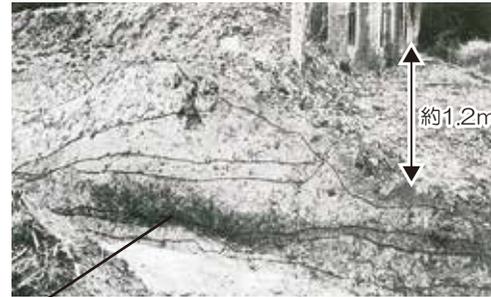


総構は、いつ築かれたのか

総構の堀が「監物堀（けんもつぼり）」と呼ばれていることから、慶長3年（1598）上杉景勝公に替わり春日山城主となった堀氏の家老堀監物直政により築かれたとする説がありますが、堀氏は入城2年後の慶長5年（1600）には福島城築城に着手したとされることから、その間に大規模な普請は考え難いともみられています。また、堀の呼び方も場所によって異なっているようです。

写真は、昭和53年に現在の史跡広場で土塁を発掘した時の様子だよ。残存していた土塁（高さ1.2m）を掘って土の様子を調べると、土塁基部から焼けた土や炭の混ざった土の層が見つかったよ。それで、調査地の総構は御館の乱後に築かれたと考えられているよ（マップ★2）。



この黒い土が御館の乱の火災の後始末をした層と考えられておる。



春日山城跡 100年のアルバム



大正初年（約100年前）明昌寺山から



平成8年 春日橋付近から



平成28年 春日橋付近から



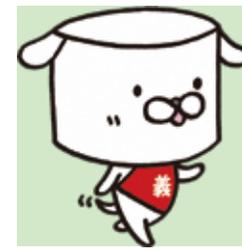
おすすめ散策ルート

散策マップで紹介したルートのほか、大手道から城跡を一周するルートもおすすめ！平野を一望できる本丸で城主になった気分でお弁当を食べるのもおすすめです。

埋蔵文化財センター発→大手道→南三の丸屋敷跡→柿崎和泉守屋敷跡→景勝屋敷跡→大井戸→本丸・天守台跡→毘沙門堂跡→直江屋敷跡→千貫門跡→蓮池（愛宕谷公園）→春日山城跡史跡広場→総構を歩いて埋蔵文化財センターへ

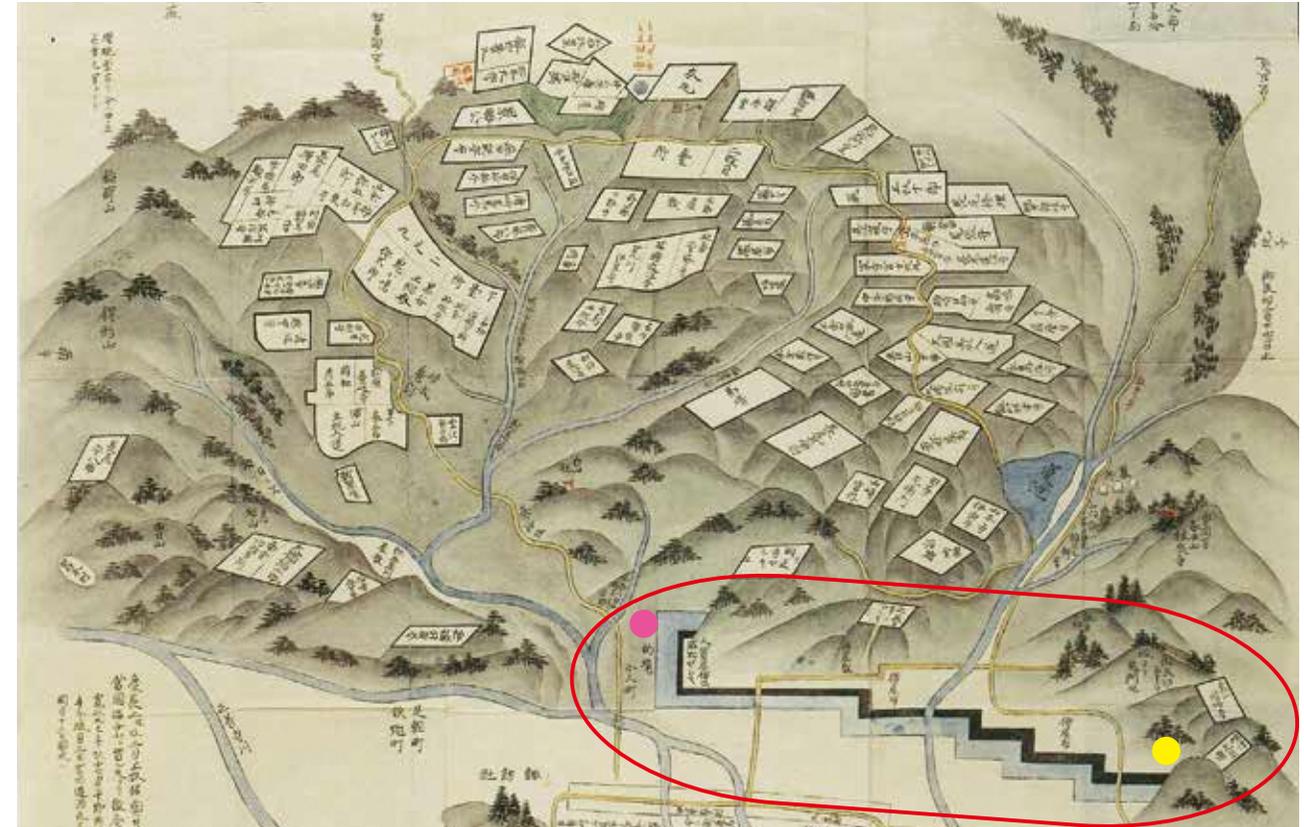


問合せ先 上越市教育委員会文化行政課 上越市下門前1770番地 電話 025-545-9269



国史跡春日山城跡散策マップ

- 総構（そうがまえ）を歩く -



江戸時代の絵図に描かれる総構 「越州春日廃城之図」（上越市教育委員会所蔵）

春日山城跡は、山頂の本丸から屋敷跡や空堀などが連続する東裾野に、堀と土塁からなる総構が築かれたことが大きな特徴としてあげられます。総構は堀と土塁を復元した春日山城史跡広場（●）から埋蔵文化財センター（●）北側まで約1.2km続いていて、総構を散策することで城の大きさを体感することができます。麓から時折見える本丸を仰ぎ見みながらの散策は、アップダウンがないので、楽らくです。

マップ片手に、散策に出かけませんか。

総構とは、城の一番外側の構えのことを言うのじゃ。山城で総構が築かれるのは珍しく、我が春日山城の大きな特徴である。どの絵図にも描かれておるぞ。



総構(そうがまえ)散策マップ

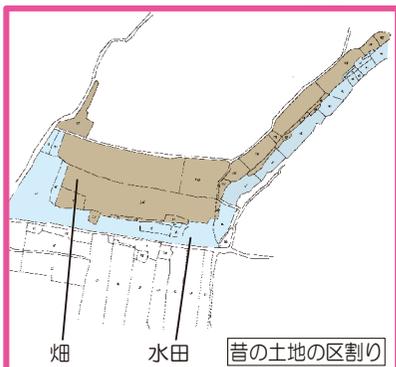
- 【凡例】**
- くるとお手軽コース (約30分)
 - しっかり散策コース (片道約30分 往復約60分)
 - 昔の川、お堀
 - 昔の土塁跡
 - 案内看板

この看板が目印だよ★

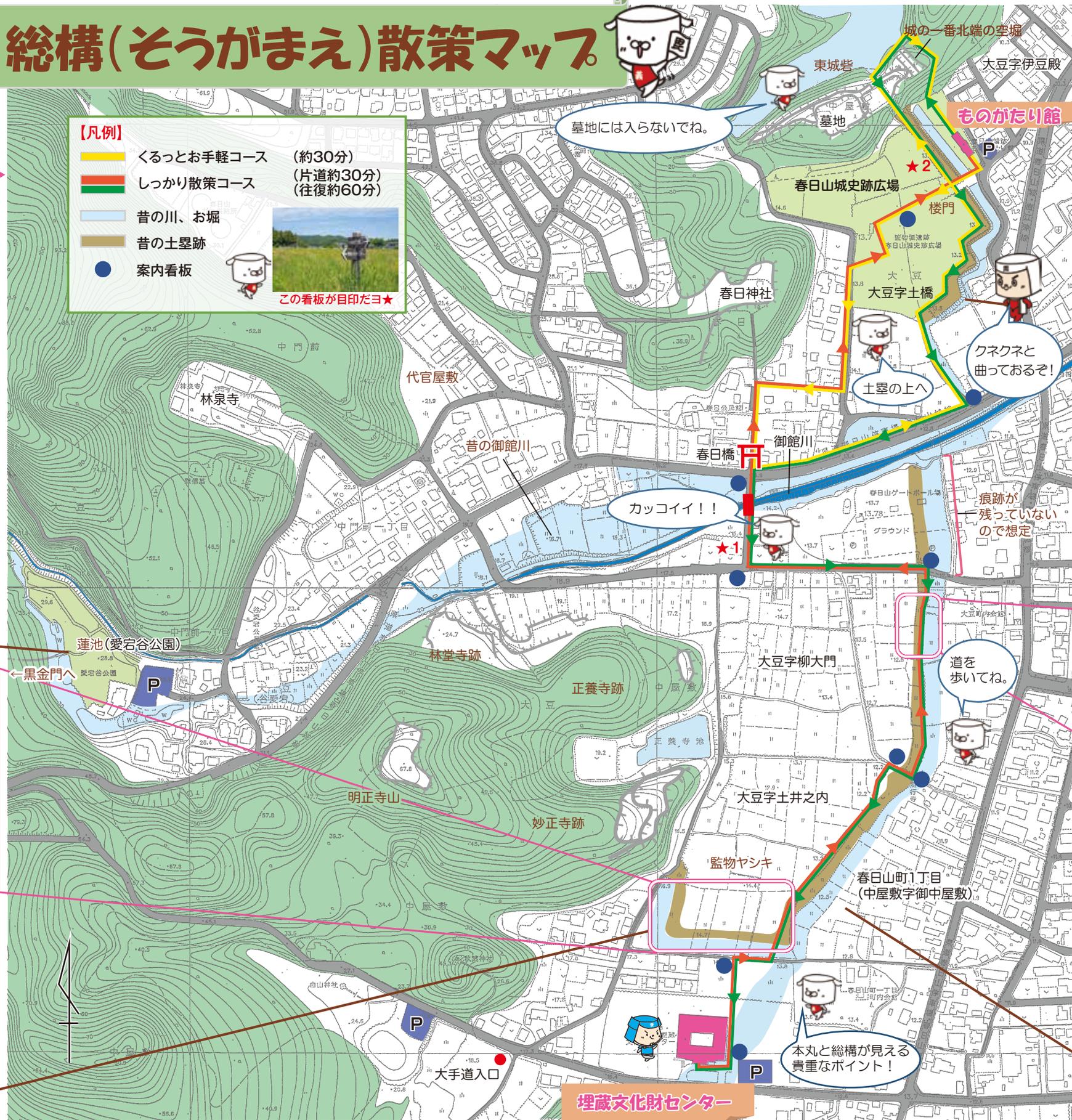


★1 から見る春の春日山は、絶景！

蓮池から黒金門を経て、いざ本丸へ！



この部分は、今は堀と土塁の痕跡は残っていないけど、昔の土地の区割りを見ると、畑を囲むように水田があったことがわかるよ。土塁を崩して堀を埋めた後を畑として利用していたのかもしれないね。



春日山城史跡広場

発掘調査成果をもとに、堀と土塁を復元しています。芝生広場(通称内堀)の発掘では、16世紀後半~17世紀はじめ頃の陶磁器などをもとに砂利敷きの道路や排水路、井戸の跡などがみつっています。

芝生広場への入口は、城跡を描く絵図に「楼門」、「牢門」、表紙絵図では「櫓門」などと記される城跡の玄関口です。
詳しくは、春日山城跡ものがたり館で！
日本百名城スタンプ設置場所です。



春日山城史跡広場の堀にはカキツバタが植えられていて、キレイ！
(見頃は5月上旬~中旬)



高低差から、土塁跡と堀跡の痕跡がわかりやすいぞ。

このあたりの堀は、「監物堀(けんもつぼり)」と呼ばれておる。埋蔵文化財センター(表紙絵図「的場小人町」)の発掘で、今の駐車場下から正善寺川の旧流路が見つかったのじゃ。それで、堀は昔の正善寺川を利用したものと考えられておる。

表紙絵図「監物ヤシキ」の発掘調査では、井戸の跡などがみつかっておるぞ。



本丸と総構が見える貴重なポイント！

埋蔵文化財センター

S=1:5,000